

わた史ノートの使い方

わた史ノート作成の背景

厚生労働省の調査によると、終末期医療に関する意思表示書面を作成しておくことについては、約70%の人が賛成していますが、実際に作成している人は、ごく少ないと報告されています。

「最期の迎え方」を書き残しておくものとしては「エンディングノート」がありますが、実際に直面しなければ、細かく決めることはできないものです。

「わた史ノート」は「最期の迎え方」ではなく、「自分らしく生きていくために必要なこと」を考え、周囲の人と話し合うことに重点をおいています。



「最期の迎え方」を書き残す「エンディングノート」ではなく、自分らしく生きるために自分の気持ちを記入しましょう。

わた史ノートを利用する意味

「わた史ノート」を利用することで、普段の生活の中では考える機会が少ないと思われる事柄について、周囲の人と話し合うきっかけを得ることができます。



周囲の人と話し合うきっかけとして利用しましょう。

わた史ノートの使い方

すべてのページを書く必要はありません。書けるところから書きましょう。

今は書けなくても、自分自身がどのように考えているか、家族や周囲の人はどのように考えているかを話し合うことが大切です。



書けるところから書きましょう。

<ご意見をお寄せください>

書いてよかったところ、書きにくかったところ、改善してほしいところなどのご意見をお寄せください。

小牧市役所地域包括ケア推進課

電話:0568-76-1188

(平日午前8時30分から午後5時15分まで)

FAX:0568-76-4595 メール:hokatsucare@city.komaki.lg.jp